

# 公益財団法人 アジア保健研修所

## 2013年度事業報告

2013年4月1日～2014年3月31日

はじめに	1
<b>A. 研修事業</b>	
1. 国際研修	1
2. 研修生フォローアップ事業	
1) 英文ニュースレター発行	1
2) リユニオンセミナー（国別の元研修生会合）開催	2
3) その他のフォローアップ	2
3. 地域保健推進のための協働事業	
1) 国際ワークショップ	2
2) 研修生によるコミュニティ活動への支援	2
3) アジア各国間での学び合いの促進	4
4) その他	4
<b>B. 国内活動</b>	
1. アジア理解のためのプログラム	
1) オープンハウス	4
2) 初めて始めて講座	4
3) A H I 講座	4
4) アジアの地域づくりワーカー交流会	5
5) スタディツアー	5
6) その他	5
2. 関連分野での情報および体験機会の提供	
1) 情報誌「アジアの健康」発行	6
2) 情報誌「アジアの子ども」発行	6
3) ホームページ運営	6
4) ボランティア・インターンの受け入れ	6
3. 他団体との協力	
1) 他団体への講師派遣	7
2) 団体・ネットワークへの加盟	7
3) 他団体との協力による政策提言活動	7
<b>C. 法人運営</b>	
1. 理事会・評議員会	7
2. 賛助会員募集・募金活動	8

## はじめに

### ■研修事業

従来に引き続き 2013 年度も、研修事業に関しては、元研修生との協働に力点を置いた。2013 年 11 月に行ったインドでのリユニオンセミナーでは、今後自国での開催を計画しているバングラデシュの元研修生のほか、タイの元研修生もゲストスピーカーとして参加し、各国の研修生間の経験交流のひとつの具体的な形となった。今後国別リユニオンについても、国を超えた交流を促す方向で臨みたい。

### ■国内活動

国内活動については、多様なテーマ設定と潜在的な関心層の掘り起こしは引き続き課題であるが、ホームページの充実や SNS の活用に努めた成果が少しずつ現れた。また日進市の公募提案型事業が採択されたことで、公立小学校 7 校で出前講座を行った。教科書 (AHI が掲載された小 6 の東京書籍発行の社会科教科書) とあわせ、この地域でよく広く知られ、活用される存在となっていくことをめざす。

### ■法人運営

財政については、賛助会員数と会費収入の減少に対応するために 2010 年度に設置した「ひとつかみサポーター」(月額引落) は 100 名を超えたが、一層の協力呼びかけが必要である。

## A. 研修事業

### 1. 国際研修

期間:2013年9月8日～10月14日

場所:アジア保健研修所(AHI)

参加者:9ヶ国から計12名(男性8名、女性4名)

国別内訳:バングラデシュ2名、カンボジア1名、インドネシア1名、ネパール2名、パキスタン1名、フィリピン1名、スリランカ1名、東ティモール1名、タイ2名

内容:「地方分権下での住民参加型保健活動の推進」をテーマに、各自の活動経験と課題意識に基づく研修事業を実施した。

\*健康問題の原因、保健政策の現状と課題、グローバル化の影響などを参加者による発表と討論を通し、理解を深めた。

\*どのように住民が主体となることができ、住民組織の能力向上、地方行政や他の関連機関との連携、および政策提言などについて討論した。

\*日本の健康課題を理解するため、近隣の高齢者介護施設、および名古屋市内で野宿生活者への支援活動を見学した。市民と行政の連携・協働に関して日本の状況を学ぶため、日進市および尾張旭市(WHO健康都市)を訪問した。また、広島市を訪問し、平和教育や市民活動の関係者と交流した。

\*参加者各自が、新たな課題解決の方策を模索し、帰国後の活動計画を立案した。

### 2. 研修参加者へのフォローアップ事業

#### 1) 英文ニュースレターの発行

AHIと、元研修生および関連団体との関係を継続させ、同時に元研修生同士が誌上にて活動経験を共有し学びあう場として毎号1000部、次のように発行した。

- \*2013年4月 第91号 テーマ:協同組合づくりを通じた住民の主体的な健康を守る取り組み(日本およびネパールの事例から)
- \*2013年8月 第92号 テーマ:フィリピンとカンボジアにおける草の根の平和づくり(2013年3月に実施したピースクリエイターセミナーの報告)
- \*2014年2月 第93号 テーマ:原子力を超えて(インド・日本より、住民の原子力発電所建設反対運動と自然エネルギー活用の取り組み)

## 2) リユニオンセミナー(国別の元研修生会合)の開催

各国内での元研修生間の情報交換を促し、新たな学習やネットワーク形成の機会として、彼らからの自発的な発案を基に、共に計画、実施する。

インドでは、2011年度に続き下記の通り開催した。

日時: 2013年11月20日~23日

場所: 南部カルナタカ州マイソール

協力団体: 元研修生の所属団体カルーナ・トラスト

参加者: 計37名

(内訳: インドの元研修生29名の他、タイとバングラデシュからの元研修生ら4名。AHIから職員3名及び会員1名)

内容: 地域保健における住民参加とNGOの役割をテーマに、元研修生の活動経験の報告。協力団体の事例紹介と活動現場訪問。

\*バングラデシュリユニオンは、政治状況等のため次年度に延期した。

## 3) その他のフォローアップ

元研修生との関係継続、強化と情報交換の促進のため、次のような働きかけや環境整備を行った。

\*職員・ボランティアが寄せ書きしたバ

ースデーカードの送付、および年末グリーティングカードの送付。

\*元研修生対象のウェブ検索サイト開設。情報交換や活動の参考とするため、活動分野や国名をキーワードに検索できる機能を充実した。

## 3. 地域保健推進のための協働事業

### 1) 国際ワークショップ

協働事業を共に進めているフィリピンの団体 INAM 訪問時に、協働事業の実施地域であるルソン島中部のリサール州タナイ町を会場にした国際ワークショップの開催について関係者と協議した。2015年3月の開催をめざし、準備することとした。

### 2) 元研修生によるコミュニティ活動への支援

元研修生による特定地域での開発事業5件に協力した。下記①~④は2010年度から、⑤は2012年度から開始したものである。①は2013年度末で終了した。

#### ① 地域住民と保健行政との連携促進 サ・キムゾーン(2004年国際研修参加) の所属団体カンボジア青年開発センターとの協働 (カンボジア)

カンボジア北西部バットンバン州の2つの集合村において、保健ボランティアを軸として、母親、若者、障がい者のグループを結ぶネットワークを形成し、保健センターや行政との連携を促進するための活動を行った。

しかしながら2013年度は、元研修生の健康状態が悪くなり、それに伴い、団体の運営体制が不安定でAHIとの交信も途絶えがちであった。住民が要望を保健センターに届ける経験を積み、今後も必要

に応じて自立的に行動できると見込めるようになったことから、2013年度で終了とした。

## ② 少数民族の人々のリーダーシップ育成

### マリー・プリンシー（2009年国際研修参加）の所属団体 Janawaboda Kendraya (JK) との協働（スリランカ）

西部のニゴンボ周辺地域で独立した民族とは認められていないテリング（インドからの移住民）のリーダーシップ育成や保健活動を支援した。彼らの自発的な動きとして、他の地域のテリンググループとの交流も始まり、2013年8月には北部への訪問が実施され、40名以上が参加、グループ同士の経験交流が行われた。

一方、JK内部の運営体制に課題が見られ、職員が2014年1月に出張した際協議を行い、改善を求めた。

## ③ 茶農園地域の教育環境改善の支援 Human Development Organization (HDO), Satyodaya, PREDO との協働（スリランカ）

中部の茶農園で労働者として働くインドタミルの人々は長年にわたり低い地位に置かれてきた。この人びとの生活改善に取り組む3団体の活動地域にある公立の学校を拠点に主に就学期の子どもへの教育支援の一環として、補修クラス実施のための支援を行った。これを通して彼らの家族や地域の人々の教育への関心が高まってきている。

しかしながら2014年1月職員が出張した際当該三団体間の連絡の悪さ、活動の方向性の違いなどについて課題が挙げられ、HDOのみを窓口とすることが難しいと判断、次年度以降はそれぞれがAHIと直接交信するものとした。

## ④ ヘルシーライフスタイルプロジェクト 元研修生有志グループ ANAK-NC との協働（フィリピン）

ミンダナオ島ダバオ州ニューコレリア町において、保健ボランティア（保健行政の一環として位置付けられている）を中心とした健康推進活動を支援した。2013年度新たに1村が加わり、計4村で活動が展開された。保健ボランティアの育成研修（生活習慣病予防等）を実施、参加者は約150名であった。この研修を受けた保健ボランティアが定例の地区集会で住民に指導を行った。活動対象4村のうち2村では、広く住民の関心を喚起するために、健康フェスタが開催された。

町行政を同事業の正式なパートナーに位置付けることが当初からの課題で、地道に働きかけを行った結果、今年度合意書を取り交わすに至った。また ANAK-NC が NGO として保健省の賞を、また町行政は全国栄養賞を受賞し、町民の健康意識を高める一助となった。

## ⑤ 保健ボランティア育成と代替医療の推進 元研修生の所属団体 INAM との協働（フィリピン）

ルソン島中部リサール州タナイ町およびケソン州ジェネラルナカール町での保健ボランティアの育成に協力した。タナイ町では、行政と連携し先住民の居住地で、保健ボランティアの育成と住民の資金づくり（医療機関にかかる際の交通費等にあって）に関する研修が2回開催された。（各5日間、参加者のべ25名）また新たにボランティア育成のための基礎研修も行われた（5日間、参加者31名）

2013年12月担当職員が出張し、同町関係者も含め協議を行い、2015年2月同町でのAHI国際ワークショップ開催が合意された。

一方ナカール町では、現地のパートナーの教会団体が、指導者の交代により財政支援が得られず活動が停滞した。AHI職員訪問時に、今後の持続性を鑑み、町

行政の関与を引き出す必要性も協議され、今後それに努めることとした。

INAM: Integrative Medicine for Alternative Health Care Systems, Philippines Inc

## ⑥その他

ネパールとパキスタンの元研修生から受けた要請を検討し、次年度から実施の方向とした。したがって、協働事業の新たな募集は行わなかった。

### 3) アジア各国間での学び合いの促進

アジア各国の元研修生の経験、提供できる学習機会を互いに生かすように環境を整え、経験交流を促すことがこの事業の目的である。2009年以來タイ全国保健大会への参加希望者を募り、派遣をしてきたが、2013年度は見直し作業がタイ側で行われ、その結果を踏まえて、AHIも継続するかどうか検討することにした。

結局 2013 年度の同大会は、タイの政治状況の影響で開催されなかった。

### 4) その他

#### ①フィリピン台風被災者支援

救援金の申し出を受け、2013年11月に起こった台風被災支援のため、救援金を以下の2団体へ送った。

\*ダバオ医科大学財団（協力団体）  
レイテ島への医療チーム派遣とその後のフォローアップ

\*イロイロ州開発コード NGO 幹部会議  
（元研修生の所属団体）

パナイ島の児童への文具・生活用品配布

#### ②カンボジア JICA 事業への協力

JICA カンボジア「助産能力強化を通じた母子保健改善プロジェクト」からの要請にもとづき、2014年2月9日～3月1日、宇井職員を短期専門家として同プロジェクトに派遣した。JICA プロジェ

クトにおけるワークショップのファシリテーターを担う予定である、コンポンチヤム州病院の助産師らを対象に研修、実地助言を行った。

## B. 国内活動

### 1. アジア理解のためのプログラム

#### 1) オープンハウス

賛助会員や地域の人たちが楽しくアジアと AHI に触れるお祭りとして、オープンハウスを開催した。

前年度までのメンバーを中心に、実行委員募集の説明会を6月に行い、同委員会が企画・運営にあたった。当日は、約170名のボランティア、外部24団体の参加、約700名の来場者が得られた。

日時：2013年10月14日（祝・月）

場所：アジア保健研修所（AHI）

#### 2) 初めて始めて講座

国際協力、あるいはボランティアなどに関心のある新規の人を対象として、活動紹介のための講座を毎月1回、定期的で開催した。参加者計64名。この講座に参加後、AHI との関係が継続するように他のプログラムとの連携をとり、結果、約3分の2の人たちが、その後ボランティア活動或いは何らかのプログラムに参加した。

#### 3) AHI 講座

会員等関係者の協力を得て、アジア、国際協力等に関連する様々なテーマを掲げ、下記のように実施した。今後、広報、実施において、打ち出したい側面を明確にして臨むことに一層努める。

① 2013年4月20日 「AHI ×アジア

×わたし」於 AHI 17 名参加  
名古屋 NGO センターのグループがファシリテータとなり、バングラデシュの「米ひとつかみ」（女性の家庭内の貯蓄）をめぐる状況を扱ったワークショップを行った。

- ② 2013 年 6 月 22 日 「リア充な 11 日間」バングラデシュツアー報告会  
於名古屋中央教会 25 名参加。ツアーメンバーがツアーでの体験と現地の状況を報告した。
- ③ 2013 年 8 月 3 日 「パキスタン 5 つのホント？」インターンの後藤和也さんが同国の元研修生を訪ねた体験を報告した。於 AHI 20 名参加
- ④ 2013 年 12 月 7 日 「モンゴルに思いを馳せる集い」於 AHI 23 名参加  
元研修生で名古屋大学大学院の留学生（当時）であるエネーさんによる講演会。伝統的な暮らしが変化している状況を語った。

#### 4) アジアの地域づくりワーカー交流会

国際研修の研修生をリソースパーソンに、アジア各国の状況や NGO・住民組織による活動について知り、日本の状況に照らして考える機会を提供した。

学生や海外での滞在経験を持つ人たちなど、英語の通訳・運営のボランティア計 34 名の協力を得た。準備の一環として、8 月に通訳研修も行った。

日時：2013 年 9 月 28 日（土）

場所：アジア保健研修所（AHI）

参加者：96 名（含通訳ボランティア）

#### 5) スタディツアー

バングラデシュの元研修生の所属団体 Jagorani Chakra Foundation (JCF) の協力を得て、2014 年 3 月 20 日～29 日スタディツアーを実施した。参加者 17 名。

職員 1 名、インターン 1 名が同行した。

JCF の活動地域である農村部を訪れ、ホームステイなど生活体験を持った。また貧困層の女性支援の活動を見学し、開発について学んだ。高校生から 50 歳台まで多様な参加者が交流する機会ともなった。ツアー後、以前の参加者も含めた参加者間の交流や他のプログラムへの参加を促すことに努める。

#### 6) その他

##### ①インドの元研修生による講演会

インドの元研修生マンジュナスさんが 6 月 11 日に来館。同日夕刻「ヨガとアーユルバーダの実践者マンジュナスさんとのゆうべ」を名古屋市内で開催し、彼の講演とミニヨガ体験の会とした。参加者 27 名うち約半分が新規の参加者だった。

##### ②フィリピンの保健ボランティアによる講演会

2014 年 3 月 8 日に行われた日本国際保健医療学会西日本大会（於愛知医科大学）のゲストとして、フィリピンのニューコレリアからクレセンティア・グメラ（通称ナナイ）さんが招かれたことに伴い、同大会に協力し、また 3 月 9 日には、AHI にて講演会を行い、保健ボランティアとして長年の経験が語られた。21 名参加。

また彼女は ANAK-NC の活動に中心的に関わっていることから、この事業に協力をしている（株）東海理化を訪問したり、山間部の住民による保健活動を見学し、学習の機会も提供した。＜3 頁参照＞

##### ③「体感アジア！」小学校で行う国際理解講座 一日進市委託事業

公募提案型（テーマ提示型）協働事業自治推進事業に応募し、多文化共生のテーマで、体験型学習を行う事業が採択さ

れ、2013年9月から11月、市内9校のうち、7校で実施した。各回高学年の生徒約100人を対象とし、7～8人のボランティアの協力を得て実施した。

#### ④岐阜中ロータリークラブへの協力

同クラブから国際貢献事業について検討するため、まずアジアの地域開発活動の現場を訪問したいという要請を受け、フィリピン、ニューコレリアのANAK-NCに受け入れを依頼。同クラブメンバー4名が2013年11月訪問するにあたり、AHI職員が同行した。

## 2. 関連分野での情報および体験機会の提供

### 1) 情報誌『アジアの健康』の発行

アジア各地の状況、開発課題、およびそこでのNGOや住民による取り組みを伝えた。できるだけ具体的な情報を提供し、読者が身近に感じることができるよう努めた。またボランティアとして関わる人たちの様子も取り上げ、市民による国際協力への関心を高めた。年に5回、各回5,000部発行。

うち6月号は、通常より簡便な形(A4紙1枚両面)とし現地での活動をわかりやすく伝えるものとした。この号を除いて、企画・編集は賛助会員で作る「会報編集委員会」が担当した。

### 2) 情報誌『アジアの子ども』の発行

日本の子ども(小学校高学年が主な対象)向けに、現地での地域開発の活動も織り交ぜて、同時代を生きるアジア各地の子どもたちの日常をわかりやすく伝えることを目的に各6,000部発行した。

企画・編集は、賛助会員で作る「アジアの子ども編集委員会」が担当した。

2013年8月「トナカイびとツァータン」  
(モンゴル)

2014年2月「ピーステーブルへようこそ！」(フィリピン)

## 3) ホームページ運営

潜在的な関心層を対象に、ホームページの充実に努めた。イベントの告知やボランティア募集などは体験者の感想などを紹介し、身近に感じられるように工夫し、研修については、国際研修のページを設け、研修生、担当職員、研修の流れを紹介した。国際研修期間中は、インターンの協力を得て、研修の様子を頻繁にフェイスブックで紹介した。

こういったことから、元研修生からもコメントが多く寄せられ、日本の関心層とアジア各国の元研修生のコメントが並び、間接的ではあるが、双方の交流が生まれた。今後も引き続き充実に努める。

## 4) ボランティア・インターンの受け入れ

積極的にボランティアあるいはインターンを受け入れ、NGO活動に触れる機会を提供した。事務作業、民芸品管理、賛助会事務など多様な業務がボランティア活動として担われた。

インターンは、大学等によるプログラムを通じての人が12名、個人から直接申込みの人が5名。日進市内の中学校の職場体験として、4名を3日間受け入れた。日進市内の県立高校の新任教員研修を各2日間計4人を受け入れた。

## 3. 他団体との協力

### 1) 他団体への講師派遣

要請に応じて、職員や関係者を講師として派遣した。また他団体主催のイベント等に出展し、積極的に新たな人たちと接点を作ることに努めた。2013年度の実績は次の通り。

- ・学校関係（中学～大学）22件
- ・キリスト教会 4件
- ・諸団体 13件
- ・ブース出展・他団体でアピール 9件
- ・グループ来館受け入れ 4件

尚、上述のうち、学校4件、キリスト教会関係2件、諸団体3件は、国際研修に参加したパキスタンとバングラデシュの研修生による講演会で、研修終了後の10月15日～20日各地で現地の状況や活動内容を報告した。

## 2) 団体・ネットワークへの加盟

下記の諸団体に加わり、関連分野の活動をともに進める。＜ ＞内は職員各団体における現役職名。

名古屋 NGO センター＜理事＞、名古屋キリスト教協議会＜書記＞、市民フォーラム 21 名古屋 NPO センター、障害分野 NGO 連絡会（JANNET）＜幹事＞、日比 NGO ネットワーク、日本キリスト教協議会、カンボジア市民フォーラム＜世話人＞、開発教育協会、あじさい会（日進市内の事業所交流会）、ゆるやかネットワーク（日進市市民団体協議会）＜理事＞、パートナーシップサポートセンター＜評議員＞

この他、職員が次の団体の役職を務める。

- ・社会福祉法人さふらん会＜評議員＞
- ・一般財団法人名古屋 YWCA＜評議員＞

## 3) 他団体との協力による政策提言活動

### a) 名古屋 NGO センター

東海地域の NGO ネットワークである同センターの加盟団体として、国際協力機構（JICA）や外務省などに対して行う政策提言活動に関わった。

2013年12月には、「CSO 開発効果向上に関するコンサルテーション」会議（於台北）に、名古屋 NGO センターを代表

して AHI 職員が参加した。

### b) カンボジア市民フォーラム

同フォーラムの世話人の一人として、同フォーラムが行う市民向け講演会や、日本政府の援助実施に関する提言活動に関わった。

### c) 日比 NGO ネットワーク

フィリピンに関わる日本の団体と現地の NGO との交流、協力の推進を目的とする同ネットワークに加盟し、フィリピンの諸課題について日本の市民の関心を高め、日本政府の援助政策に関する提言活動に参加した。

## C. 法人運営

### 1. 理事会・評議員会

第1期（任期2年）の2年目である2013年度は、次の通り開催した。場所はいずれも AHI。

#### \* 理事会（理事 11 名）

2013年6月15日

－2012年度事業報告及び決算案の件  
2013年8月3日

－株式譲渡を受ける件

－愛知国際病院改修に伴う会館改修の件  
2013年12月7日

－株式を基本財産に組み入れる件  
2014年2月8日

－元研修生との協働事業の件

2014年3月18日

－2013年度補正予算案の件

－2014年度事業計画及び予算案の件

#### \* 評議員会（評議員 11 名）

2013年6月27日

－2011年度事業報告及び決算案の件他。

2014年3月29日

－2013年度補正予算案の件



ー2014 年度事業計画及び予算案の件

度当初の賛助会員数(納入見込件数)

に照らした継続率は約 60%。

②は、継続の 98 名による。

## 2. 賛助会員募集・募金活動

2014 年 3 月 31 日付

賛助会員数 3,237 名

(内、「ひとつかみサポーター」119 名)

寄付者数 659 名

### ■「ひとつかみサポーター」の募集

賛助会員数が毎年著しく減少する中で、2010 年度に月額引落制度(1 口千円)を開始。2013 年 12 月には、過去 1 年間のボランティア協力者、イベント参加者、問い合わせ者計 526 名を対象に、ダイレクトメールを送付した。→5 名が協力。

### ■「想いを伝える遺言書の書き方講座」

支援者の高齢化、社会情勢の変化に伴い支援者サービスの一環として実施した。

2013 年 5 月 18 日 参加者 11 名

2013 年 11 月 2 日 参加者 18 名

## ●会費収入実績 15,093,000 円

(目標 16,600,000 円 達成率 94%)

### 1. 新規会費 240,000 円

(目標 590,000 円 達成率 40%)

① 従来の年会費制度による 85,000 円

② ひとつかみサポーターによる  
155,000 円

①は、新規 22 名による平均 3,863 円

②は、新規 26 名による

### 2. 継続会費 14,853,000 円

(目標 15,410,000 円 達成率 96%)

① 従来の年会費制度による

13,528,000 円

② ひとつかみサポーターによる

1,325,000 円

①は、1 件あたり平均約 6,300 円。年

## ●寄付金収入実績 55,366,448 円

(目標 33,000,000 円 達成率 167%)

<ここでは株式譲渡による寄付金収入は含めていない>

### 1. クリスマス・お正月募金

協力額 17,440,195 円

(目標額 20,000,000 円達成率 87%)

2013 年 12 月 1 日～2014 年 2 月 28 日に実施。協力件数 1,736 件。

### 2. 一般寄付 37,926,253 円

協力件数 401 件。

内、5 件が 100 万円以上。